

第13回「社会・意識調査データベース(SORD)」 ワークショップの開催

The 13th Workshop of Social and Opinion Research Database Project (SORD)

社会・意識調査データベース作成プロジェクト 新國三千代

第13回「社会・意識調査データベース(SORD)」ワークショップを2004年3月13日(土)13時30分～17時30分、本学G館5階特別会議室において開催した。SORDプロジェクトは、昨年度から北海道に関する社会調査データベースを構築するための準備作業を進めてきた。これを受けて、ワークショップでは昨年度から北海道における社会調査の足跡を振り返り、今後の課題を明らかにするために、北海道の社会調査に取り組んで来られた研究者に講演をお願いしている。今年度は長年北海道の社会調査を行ってこられた小林甫氏(北海道大学)をお招きし、コメンテーターとして社会調査の分野で活躍中の研究者3名をお呼びした。

まず、小林甫氏(北海道大学)から「グローカリゼーションとはなにかー北海道から考えるー」というタイトルでご講演いただいた。小林氏は、まず、社会学において「グローバリゼーション」がどう捉えられ、どのように論争されているかについて論じた後、「グローカリゼーション」が社会学や地域社会学研究に与えた影響について述べられた。そして、北海道社会を対象に今までどのような研究が行われてきたのかについて、北海道をフィールドとした実証的研究の膨大な資料に基づき詳細な報告を行った。最後に、グローカリゼーションの観点から調査研究の課題について言及した。

続けて、3名のコメンテーター：小内透氏(北海道大学)、玉野和志氏(東京都立大学)、内田司氏(札幌学院大学)から、小林氏の講演についてのコメントがあり、小林氏を含めこれを巡って活発な議論が行われた。詳細については、本誌に掲載した講演および議論(コメント)にゆずる。

なお、ワークショップの前に、小林甫氏から御自身が実施された社会調査の「調査票」、「フィールドノート」、「調査対象に関する刊行物」等をSORDプロジェクトに提供したい旨のご意向が示された。ワークショップ後、この大量の貴重な資料がSORDプロジェクトに引き渡された。SORDプロジェクトでは、これらを保管すると共に、データベース化し、研究・教育に供するための整理作業を進めることになった。小林氏の資料やデータの提供は、今後の北海道を軸とするデータアーカイブ構想にも大きく貢献するものになると関係者一同、感謝しているところである。その後、これらの整理も順調に進んでおり、SORDプロジェクトの新たな再出発を飾るに相応しいワークショップになったと考えている。

ワークショップのプログラムは次の通りである。

(プログラム)

- 学部長挨拶 千葉 正喜(札幌学院大学社会情報学部)
- 事務局からの挨拶 西城戸 誠(京都教育大学)
- 講演 演 「グローカリゼーションとはなにかー北海道から考えるー」
小林 甫(北海道大学)
- 全体討議 司 会：中澤 秀雄(千葉大学)
コメンテーター：小内 透(北海道大学)
玉野 和志(東京都立大学)
内田 司(札幌学院大学)